

令和6年度 第1回 学校運営協議会 議事録（要点記録）

- 1 開催日時 令和6年4月24日（水）14時00分から15時30分まで
- 2 開催場所 気田小学校 会議室
- 3 出席委員 森下 薫、山下 太一郎、山下 晃二、福島 亜弥、清水 恭子、森下 裕子
- 4 欠席委員 岩本 裕美子、正久 幸廣、三谷 憲明
- 5 アドバイザー 勝又 真希（気田幼稚園園長）
- 6 学 校 堀部 憲一（校長）、野嶋 孝弘（教頭）、田代 萌（CSディレクター）
- 7 教育委員会 井島 健蔵（教育総務課）
- 8 傍聴者 なし
- 9 協議事項

- (1) 議長の選出について
- (2) 令和6年度学校運営の基本方針の確認
- (3) 本年度のコミュニティ・スクールの進め方について
- (4) 夢育やらまいか事業（CS加算分）の対する意見書について

10 会議録作成者 田代 萌（CSディレクター）

11 会議記録

司会の野嶋孝弘から委員の参加者数が既定の数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 議長の選出について

司会から、議長の選出について意見を求めたところ、森下薫会長を山下晃二委員から推挙する発言があり、全員異議なくこれを承認した。

(2) 令和6年度学校運営の基本方針の確認

議長の指示により、校長から別紙資料に基づき学校運営基本方針について説明があった。

また、いじめ防止基本方針、教育に対して委員から発言があった。

親の時代と今の子の時代のメンタルは違う。言いたいことを言わずにため込む傾向がある。互いの気持ちを伝えられるように先生方に協力願いたい。（福島委員）

いじめ防止の話を経験者が話してから、児童が落ち着いた。カウンセラーに話せる環境はあるが、子供は大人に話すと事が大きくなるのではとため込んでしまう。話しやすい環境を整えられないか。（清水委員）

言った子が損しないように対応していく。校長に話が行き、関係職員を集めて迅速に対応する。担任に任せることなく、組織で対応する。やった子を責めるのではなく、加害者と被害者の認識の違いを修正し、人間関係の修復を図る。人間的な成長を助ける指導をする。（校長）

いまは支えてくれる大人がいるが、大人になってそういった存在がいなくなる。学校は訓練の場所であるという考えである。（山下太委員）

今の子は怒るより褒める。いいことではあるが、大人になってすぐ折れてしまう子が増えるのではないか。

いじめから立ち直る子を育てることがだいじではないか。（山下晃委員）

怒るばかり、褒めるばかりにならないよう、児童の行動等をしっかり理解したうえで、うまく使い分けて弱いだけの子ができない教育を心掛けたい。（校長）

友達も力関係も変わらない中で、先生の声掛けもあり、個人の個性を尊重する関係性ができた。多少のいざござはあるものの、深い関係は築けている。（森下裕子委員）

いろいろな遊びを通して、思い通りにいかないことで相手の考えを理解しようとしたり、これいいねとお互いの良いところや考えを見つける、お互いを尊重していくことを学んでいくことが大切である。（勝又園長）

少ない人数だからこそ深い関係がある。人数の多い町の子より、少ない人数だからこそ深い友情があり、良いことである。大人になっても変わらない関係を築き続けるであろう児童たちをしっかりと見守り、尊重することが大切だと思う。（校長）

協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

(3) 本年度のコミュニティ・スクールの進め方について

議長の指示により、校長から、昨年度の実績について説明があった。

昨年度まで行っていた筏体験は、ボランティアの人数が多数必要なこと、用務員の負担が大きいなどの点から、全校児童で川遊びに変更することになった。春野文化センター付近の川で遊ぶことを予定している。運動会が、気温が高くなり熱中症の危険性があること、暑さ対策としてテントを多数立てるのに、人数が必要であり、負担が大きいことから、11月開催を予定している。

司会から、本年度の目標について意見を求めたところ、以下の発言があった。

前回行ったさまざまな体験（田植え、筏）を、大人も一緒に参加し、子供の成長を近くで見たい。やらせたいことも重要であるが、児童のやりたいことの実現も叶えられるようにしたい。（福島委員）

協議の結果、「協議会委員がコミスク関連行事に参加する機会を設けて、児童と一緒に楽しんだり、対話をしたりしながら、今後の活動の在り方を考えて形にする」を、令和6年度浜松市立気田小学校運営協議会の目標として、全員が承認し、協力していくことでまとまった。

(4) 夢育やらまいか事業（CS加算分）に対する意見書について

議長の指示により、校長から別紙資料にもとづき、夢育やらまいか事業について説明があった。

委員全員理解し、異議なくこれを承認した。

その他連絡事項等

教頭から、今年度の会議の日程について報告があった。

第2回 令和6年 7月11日（木） 14：30～

第3回 令和6年10月15日（火） 14：30～

第4回 令和6年 2月14日（金） 14：30～

森下 薫委員の推薦（山下 太一郎委員）

異論はなく可決

(1) 学校運営の基本方針

子供たちが楽しいといえる学校を前面に

やったできたが子供たちが言える学校にしたい（やったできたがんばった）

校長からの挑戦状をつくり、やりがいを出す

教育目標 春野を愛してほしい春野を好きになる活動、ふるさとならではのものを活用（ふるさとキャリア教育）

優言実幸（優しい言葉で幸せを実現）

今年度の学校運営の変更点

複式学級が解消 単級

いかだ体験 川遊び（負担が大きい、全校で川遊びに宮川の文化センターの近くの川）

運動会 11月開催（熱中症の心配から、9月から移動）

質問等なし（森下会長）

いじめ基本方針

いじめの定義説明

いやだ、こまる、かなしい、つらいを感じたらいじめ

そんなつもりはないという加害側のきもちより被害者の気持ち優先

法的ないじめと親の認識のいじめの違い（喧嘩もいじめになりうる）

学校側は加害者と被害者の認識の違いを修正する、人間関係の修復

いじめはあるかといわれたら断言はできないが、0にする努力をしている

親の時代と今の子の時代のメンタルは違う。言いたいことを言わずにため込む傾向、お互いの気持ちを伝えられるように先生方に協力願いたい（福島委員）

いじめ防止の話を校長が話してから、児童が落ち着いた。カウンセラーに話せる環境はあるが、子供は大人に話すとならなくなるのではとため込んでしまう。話しやすい環境を整えられないか（清水）

言った子が損しないように対応していく。組織で対応、校長に話が行き関係職員を集めて速く手短かに対応する。担任に任せないように。やった子を責めるのではなく、人間成長を助ける指導をする（校長）

子供が成長するにつれ、親に話さないことも増える。そのフォローを。少ない人数から社会に出て、対応できる教育をしていただきたい（児玉）

少ない人数だからこそ深いつながりがある。（町の子より）そこは町より、深い友情があり、いいことだろう（校長）

友達も力関係も変わらないなかで、先生の声掛けで個人の個性を尊重する関係性ができた。多少のいざござはあるものの、深い関係は気づけている。（森下）

いろいろな遊びを通して、思い通りにいかないこと、これいいねといいところを見つける、お互いを尊重していくことを学んでいくことが大切（園長）

いまは支えてくれる大人がいるが、大人になってそういった存在がいなくなる。学校は訓練の場所であるという考えです。（山下）

自分が子供のころはいじめに対して古い。今の子は怒るよりほめる。いいことではあるが、大人になってすぐ折

れてしまう子が増えるのではないか。いじめから立ち直る子を育てることがだいじではないか（山下晃二）
温室育ちでいいか、今の子はすぐ逃げる子が多い印象（森下）

おこる、ほめるをうまく使い分けて弱いだけの子ができない教育を心掛けたい（校長）

(2) 前回の会議録、令和5年度協議会自己評価の確認

いのちの教育について教員の意識改革を進める

本読み読解力の強化

近所に友達がいない学年をこえて交流を

ひょうか項目4について説明2点の目標

4本年度のコミュニティスクールの進め方

本年度の目標

前回にもあったが児童とともにさまざまな体験（田植え、筏）をし、子供の成長を近くで見たい。子供のやりたいことの実現（福島）

(3) やらまいか

p17について説明

夢はぐと学校運営協議会はメンバーは同じ（会長違い）（校長）

（5）連絡事項

今後の予定の説明と確認（教頭）

15：30終了